

平成24年度  
セント・ピーターズバーグ市派遣  
高校生親善研修生報告書

平成24年7月20日(金)～8月4日(土) 15日間



Takamatsu International Association

公益  
財団  
法人

高松市国際交流協会





# 日 程 表

7月20日(金) 19:15 高松空港発

20:35 羽田空港着

7月21日(土) 0:30 羽田空港発

----- 日付変更線通過 -----

7月20日(金) 18:55 ロサンゼルス空港着

22:05 ロサンゼルス空港発

7月21日(土) 5:48 タンパ空港着

8月1日までセント・ピーターズバーグ市でホームステイ

8月2日(木) 19:15 タンパ空港発

21:10 ロサンゼルス空港着

8月3日(金) 1:10 ロサンゼルス空港発

----- 日付変更線通過 -----

8月4日(木) 4:55 羽田空港着

7:45 羽田空港発

9:05 高松空港着

## セント・ピーターズバーグ市派遣 高校生親善研修生 滞在日程表

日 時	場 所	内 容
7月21日(土)	タンパ空港	到着・ホストファミリーに 対面
	トロピカーナフィールド	レイズ対マリナーズ野球観戦 松井選手と対面・コンサート
7月23日(月)	セント・ピーターズバーグ市役所	CM撮影 国際交流委員会による歓迎会
7月25日(水)	セーリングセンター	セーリング体験・夕食会
7月26日(木)	ダリ美術館	ダリ美術館見学 トロリーバス乗車体験
	フロリダ・クラフツマンギャラリー	ホストファミリー引き継ぎパーティ
7月28日(土)	アメリカンステージ	演劇「ザ・フォリナー」鑑賞
	アル・ラング・スタジアム	タンパベイ・ローディーズ (サッカー)の試合観戦
7月29日(日)	セント・ピート・ビーチ	夕陽を背景にサンセット・ベルを鳴らす
7月30日(月)	サンケンガーデン	サンケンガーデン見学 サンクスギビング夕食会
7月31日(火)	親善研修生 ソロモン・ハワード君宅	プールパーティ
8月2日(木)	セント・ピーターズバーグ市役所	市長表敬・市議会見学
	タンパ空港	出発
7月22・24・27日 8月1日	各所	各ホストファミリーと行動

ST. Petersburg  
Photo Gallery



タンパ空港到着



ホストファミリーと対面



松井選手と面会



タンパベイ・レイズ試合観戦



セント・ピーターズ・バーグ市役所でCM撮影



セーリング体験



クラフツマンギャラリー見学



ダリ美術館見学



クラフツマンギャラリー見学



サンケンガーデンズ見学



サンクスギビング夕食会



市長表敬



市議会見学

親善研修生 報告書 I



丁 舊書肆 全通冊善錄

## 日誌・活動記録

高松第一高等学校 2年 久保 里都子

### 7月20日(金)

ついにアメリカへ向けて出発。なぜか頭がふわふわしてしまって少し不安だけど、きっとこの4人なら大丈夫だと思う。

今はロサンゼルスからタンパに向かう飛行機の中。羽田からロサンゼルスまでは、10時間の長いフライトだった。やっとロサンゼルスに到着して、まずデルタ航空の場所を確認してからごはんを食べようということになったけれど、そのデルタ航空がなかなか見つからない。おろおろしていても誰も声をかけてくれない。他の航空会社の人に聞いてみて、やっと見つけれられたので、ここでアメリカでのひとつの山を乗り越えた感じだ。マクドナルドで、初めてアメリカドルを使ってチーズバーガーを頼んだ。サイズが



『セント・ピーターズバーグ市の交通標識』



『タンパ空港にて』

日本よりほんの少し大きいくらいでほとんど変わらないし、味も一緒だったので、もっと違いがあるのかと期待していた私は拍子抜けだ。羽田からロサンゼルスへの飛行機の中では映画を見たり音楽を聴いたりして、快適に過ごせた。席が隣だった稲毛さんともいろいろ話したりして、ここですごく仲良くなれたと思う。

ホストファミリーはどんな人なんだろう。今は不安の方が6割くらい。だけど、せっかくの機会だし、楽しまないで損と思って全力で頑張ろう。

### 7月21日(土)

朝7時セント・ピーターズバーグに到着。やっと長いフライトから開放される。体がガッチガチだけど、いまはそんなことより期待で胸が一杯だ。ついにホストファミリーとの初対面。稲毛さんが私のホストファミリーのところに行ったので、あれ?とと思っていたらやはり稲毛さんが間違えていた。ホストファミリーはWelcome Ritsukoという大きな紙を持っていたのに。空港に迎えに来てくれたのはホストマザーのシェリル、ホストファーザーのデミヤン、娘のハンナ。そして朝はいなかったが、あと2人、ブリテンとライアンというお兄さんがいる。迎えに来てくれたホストファミリーの皆さんは、すごく笑顔で出迎えてくれて、不安は一気に吹っ飛んだ。空港から家に行く車の中で、お互いの名前呼び方の話で盛り



『市役所にて ハンナと』



『トロピカーナフィールドにて イチロー選手』

上がった。シェリルとデミヤンの名前は、日本人の私が呼ぶにはちょっと発音が難しい。私が間違った発音を繰り返していると、お母さんが「あなたは今日から私の4人目の子供になるのだから、私たちのことはママ（お母さん）、ダッド（お父さん）と呼んでいいわよ」と言ってくれて、本当に本当に嬉しかった。家に到着して、まずはデミヤンが朝ごはんのパンケーキを焼いてくれた。すぐもちもちしていて美味しかった。食事の後にこれからの一週間の予定を立てた後、「水着を忘れた」と言うと、近くのショッピングセンターや色々な所に連れて行ってってくれた。結局水着は一番最初に行ったお店で購入し、欲しかったサングラスやジーンズも買うことができた。そして大好きなスターボックスにも行けた。それからトロピカーナフィールドへ野球観戦に行った。試合前には、ダグアウト裏でタンパベイ・レイズの松井選手に会わせていただき、日本でクラスメートに書いてもらった応援メッセージも渡して写真まで撮らせてもらった。松井選手は私が思っていたよりも大きくて、気さくな方だった。フィールドに戻って、練習風景を見ていると、イチロー選手らしき人物が。対戦相手を確認すると、なんとマリナーズだった！野球のことは詳しくはないが、イチロー選手は日本が誇る名選手であることぐらいは分かる。私は、1日に2人も有名人に会うことができるととても幸せだと思った。野球観戦は観戦席の上にあるスイートルームから観戦させてもらった。本当に、こんないい思いをさせていただいていいのだろうかと思うほどだ。晩ご飯のグリルチキンとフライドポテトを食べながら、左腕にタンパベイ・レイズのタトゥーシールを貼って、優雅に応援させていただいた。試合後、コンサートの予定があったが、今日来たばかりで、さすがに疲れて行くことができなかった。トロピカーナフィールドからホストファミリーと帰宅し、シャワーを浴びて、就寝。

## 7月22日（日）

朝、ハンナが起こしてくれた。起きた時間は12時過ぎで、普段こんなに眠れないので自分でもびっくりした。一階の自分の部屋から二階のリビングに行くと、デミヤンとシェリルにちょっと苦笑いされて恥ずかしかった。急いで昼食を食べて、今日はハンナの友達の家へ。友達のジョーダンの家へは、ハンナの運転する車で行った。同い年のハンナが車を運転しているのを見ると、なんだか変な感じがした。高速でも涼しい顔をしてビュンビュン飛ばすので、刺激的でもあった。ジョーダンの家は、門をくぐってもまだ家が見えないような大豪邸だった。家は海の隣にあって、大きなプールもついていて、部屋数も多くそれぞれにバスルームがついていた。大きなテレビもありシェパードが3匹もいてアメリカの豪華さを実感した。スイミングパーティに招待されていたので、到着してすぐに水着に着替えて、家の横の海へ。そこには7～8人の友達がいる、ジョーダンはジェットスキーに乗って待っていた。私はいきなりジョーダンの後ろに乗せられて、出発した。そのジェットスキーの速さに驚いた。心臓が口から出そうだったけど、最高に楽しかった。



『浴衣を着たハンナ』

た。日本ではこんな体験はなかなかできないと思った。その後も、ハンナとカヤックに乗ったり、プールでゲームをしたりして夢中で遊んでいると、ジョーダンのお母さんが大きなチーズバーガーを作って持ってきてくれた。テラスで食べていると突然大雨が降ってきたので、家の中でピンボールやビリヤードをして遊んだり、大きなTVで映画を見たりした。その後、今度はトロイという男の子の家に移動。トロイの家には私の身長よりも大きい犬がいて、犬好きの私でも少し怖かった。帰り際、みんなが互いにハグをしてくれたので私もみんなとハグした。ハンナと帰宅後は、持参したわたしの浴衣をハンナに着せてあげた。すごく喜んでくれて、写真もたくさん撮っていたので、日本の文化が誇らしくなって、その浴衣をハンナにあげた。何か特別なときに使って欲しいと思った。1時就寝。

## 7月23日(月)

朝8時起床。シェリルとデミヤンは仕事に行っていたので朝ごはんは自分で冷蔵庫の中のパンケーキとサラダを食べた。ホストブラザーのライアンが先に起きてきて、一緒にスパイダーマンを見てハンナが起きるのを待った。11時位にハンナが起きてきて、日本円をドルに両替したいと言うと、1番レートがいいところを探してくれた。それから二人で近くの銀行に行ったが保護者がいないと替えられないということだった。

その後とても暑かったので、2人で近くの公共プールへ行った。2人でいると、会話が絶えない。ずっと話を聞こうとしてくれるし、私がうまく喋れなくてもにこにこしながら待っていてくれる。ハンナは学校でスペイン語を習っているらしく、プールでは英語、日本語、スペイン語の3ヶ国語で話した。大学では日本語を勉強したいようだ。よく、「これは日本語でなんていうの？」と聞いてくれるのがすごく嬉しい。

プールのあと、市役所でCM撮影をした。セリフをなかなか覚えられなくて焦ったけど、楽しく撮影することができた。撮影が終わるとハンナが迎えに来てくれて、Cracker Barrel というお店に行った。たくさんお土産が買えて満足だ。だけど、アメリカでは、ほとんどのお店にカゴがないので、小さなものをたくさん買うとすごく大変だ。どうしてカゴを置かないのかが疑問だった。帰宅後、晩ご飯のラザニアを食べて、就寝。



『市役所のスタジオにてCM撮影』

## 7月24日(火)

朝3時40分起床。昨日お風呂にも入らずに寝てしまったので早い時間に目が覚めてしまった。6時半になりお風呂に入って、朝はホストマザーとシリアルを食べた。時間がない時はいつもこれらしい。ビーチに行く途中でサンドイッチを買って、そこで初めて大きなサイズを頼んでみたらやっぱり食べ切れなかった。ここで、「私はもったいないことをした」ということをハンナに伝えたかったので、色々な表現でもったいない精神を説明してみたけれど、やっぱり waste という言葉に収まってしまって、なんだか悔しかった。家に帰ってからも説明し直したけれど、満足のいく説明にはならなかった。私

の目標達成ならず・・・もっと語彙力を上げてまた再チャレンジしよう。ビーチに着いて、車の外に出ると、半端なく暑い。日差しが強いのでこの日だけでかなり日焼けした。でも、砂浜は白くて、海はすごくきれいな緑色をしていて、かなりテンションがあがった。シェリルとハンナと3人で少し泳いで、そのあとはずっと貝殻を拾った。ハンナがほとんどの貝殻の名前を知っていたからびっくりした。私のお気に入りとはげとげの貝殻だ。ビーチを十分に堪能して、その後は1時間だけショッピングセンターで買い物をした。そのショッピングセンターの中に、ハンナの友達のお父さんが経営しているアイス屋さんがあったので、そこでアイスを食べ、お金を払おうとすると「君たちは僕の娘の友達だからお金は要らない」と言われた。話を聞くと彼の娘のアンナはとても引込み思案で、そんな彼女をいつもハンナがみんなの輪の中に入れるようにアシストしているらしい。ハンナは人の気持ちが分かる優しい人だと思った。このとき本当に心からハンナを尊敬したし、私もハンナのように心の優しい人になりたいと思った。

そして今晚は、私ที่บ้านで焼きうどんを作った。ウスターソースがあるかどうか心配だったが、スーパーで購入することができた。日本と同じ味に仕上がったので、安心した。ホストファミリーのみんなも美味しいと言って食べてくれたし、香川のうどんもアビールできたので満足だった。焼きうどんを作った後、少しうどんが残っていたので、どうしようかと思っていたら、シェリルが



『高松の名産うどんを使って焼うどん』

「もう一回自分たちで作ってみたいからもらってもいいか」と言ってくれて、嬉しかった。食後はハンナに日本地図を見せて、自分の住んでいるところや、将来行きたい所を説明しているうちに、まとも寝てしまった。

## 7月25日(水)



『ボイドヒル自然公園の看板』

今日は朝7時に起床。朝食後、シェリルの勤め先へ見学に行った。シェリルは小児科で働いている。いろんな診療室があり、それぞれにフロリダのスポーツチームの選手の写真等が飾られていた。もちろんタンパベイ・レイズのもあった。壁の色もカラフルで、これなら注射も怖くないかと思った。そこから、ハンナの運転でボイドヒルという自然公園へ行った。そこには大きな池のあるエリア、乾燥地帯のエリアなどがあり、多くの自然環境を一日で体験できるようになっていた。とても広くて、とても暑かったけど、歩きながらハンナと学校生活のことやお互いの将来の夢を語り合った。国籍の違う人と夢について語り合うなんて、とても貴重な経験だと思うので、すごく自分のためになったと思う。動物は、赤ちゃんワニとタカとかわいいフクロウを見ることができた。

一旦家に帰ってからシェリルとハンナと3人で高松に親善研修生として来ていたヘイデンのセーリングパーティーへ。そこでは、セーリングクラブのモーガンがヨットに乗せてくれた。ヨットは思ったよりゆっくり進んだが、海風



『タンパベイにてセーリング』

が気持ちよかった。1時間くらいのセーリングを楽しんだ後、屋内でごはんを食べた。久しぶりに日本人に会って日本語を喋った気がして、なんだか変な感覚がした。これは英語が上達した証なのかと思った。稲毛さんがおにぎりとお好み焼きを持ってきてくれていたので、久しぶりに日本食を食べた。パーティーのあと、家に帰って、ゲルク家での最後の夜だったので遅くまで色々ハンナと話した。今すごく寂しい。

## 7月26日(木)



『ダリミュージアムの外観』

今日は朝からダリミュージアム。今朝はハンナが風邪を引いたみたいだったので心配だった。朝ごはんを一人で食べて、ホストブラザーのブリテンがダリミュージアムまで送ってくれた。ミュージアムでは、日本人ガイドの田村さんが絵の解説をして下さり、私には少し難しかったけど、ダリの考え方や感じ方は私にはないもので、ダリが少し羨ましく思った。あんな風に物事を多面的に見ることができて、それを絵に表せたら気持ちいいだろうなと思った。ダリミュージアムを出て、おもちゃみたいなバスに乗って、市役所の

近くの「Acropolis Greek Taverna」というギリシャ料理のレストランでセント・ピーターズバーグ市役所のスタッフの方、田村さんご夫妻と一緒に昼食を食べた。帰りはジェリルが市役所まで迎えに来てくれて、ホストファミリーの交替までリビングでハンナと学校の学園誌を読んでいた。ハンナの高校には男の子が自分の好きな女の子を自宅に呼ぶというイベントのホームカミング(Homecoming)や、部活動対抗のダンスコンテスト(Dance competition)など日本にはない文化のイベントが多くて、ここで文化の違いを感じ羨ましく思った。日本は硬いなあ、それがいいところでもあると思うけれど・・・。



『おもちゃのような観光バス』

そしてついにホストファミリーの交替。2週目のホストファミリーとの待ち合わせ場所のギャラリーでみんなとしばらく話した後、ホストマザーのマーリーンが迎えに来てくれたのでみんなとの別れを惜しんだ。マーリーンの車でまずは小さな空港の隣のハンガーというレストランで夕食を食べた。マーリーンは一人暮らしの女性で、窓からはタンパベイの絶景が見えるビーチ近くのアパートに住んでいた。海や水に住む生き物が好きなようで、家の中のものは、すべてビーチモチーフ。なんだか夢の国のようだ。今日はとても眠いので寝る事にした。

## 7月27日(金)

朝9時起床。朝食後、午前中はビーチを散策。思ったより家からビーチが近く、とても素敵な所で、たくさんの方がいてびっくりした。昼からは陶芸教室へ行った。自分で花瓶のようなものを選んで、それに適当に色を塗って、火の中で10分くらい焼く。完成したのは、きらきらと光っていてすごく



『ホストマザーのマーリーン』

綺麗だった。大事にしようと思う。この陶芸教室にはハンナと稲毛さんも来ていて、作品を焼いている間3人で色々話をした。3人で話している時、年下の男の子がやってきて、少し仲良くなった。陶芸教室の後は、買い物に行った。マーリーンは優柔不断な私に嫌な顔ひとつせず付き合ってくれた。タイルモールは、とても広くて、そのことにびっくりしていると、次はもっと広いショッピングセンターに連れて行ってあげると言ってくれた。そこでは欲しいものが買えたし、マーリーンとたくさんコミュニケーションがとれたので嬉しかった。帰りはスーパーに寄り、焼きうどんの材料を買って、家でまた焼きうどんを作った。マーリーンは豚肉が食べられないというので代わりにソーセージとエビを入れて作ったら、すごく美味しいと言って食べてくれ、自分でも満足な味になった。今日はすぐに寝よう。

## 7月28日(土)

今日は8時頃起床。初めて洗濯をした。家の中に洗濯機はないので、コインランドリーに行った。1回の洗濯で3ドルかかった。待っている間に近所のおばさんと少しコミュニケーションを楽しむことができた。洗濯が終わってサンドイッチを作って、ビーチへ。「ヌードル」を持っていくというので、何で麺類を持っていくのかと思っていたら、それは発泡スチロールの浮き棒のことで、それにつかまっていれば海の中で沈まないというものだった。午前中はマーリーンとビーチを楽しんで、昼から「アメリカンステージ」鑑賞。開演前には役者の方々と少しお話をさせていただいた。やはりセリフがとても速くて、2割位しか英語が理解できなかったけど、話の内容は理解できた。ハンナ曰く、難しいアクセントの英語だったらしい。私も英語のレベルを上げて、違うアクセントや、アメリカの方言も理解できるようにになりたいと思った。観劇の後は、ファイブガイズというハンバーガー屋さんへ行った。普通のサイズを頼んだが半端でない量のフライドポテトがついてきて、半分も食べる事ができなかった。ハンバーガー屋さんを出て、今度はサッカー観戦。私たちが応援していたホームのチームが見事勝利した。地元の高校生と一緒に応援した甲斐があった！帰宅後は、すぐに寝てしまった。



『タンパベイ・ローディーズのサッカー観戦』

## 7月29日(日)

今日の朝はとてもお腹が空いていたので、サンドイッチを自分で作って食べた。昼前からエリントンアウトレットモールへ。まずはマーリーンと2人で昼食を軽く食べて、ここから初めてアメリカでの一人行動をした。そのショッピングモールは広すぎて全部は回れないと言われたので、英語の地図でどうにか行きたいお店の場所をチェックして、一人で好きなものを買って、時々店員さんと会話をした。緊張したけど大した問題はなかった。マーリーンはすごく心配してくれたけど大丈夫だった。

でも、今日で殆どのお金を使ってしまった。買い物後は一旦家に帰って、家の近くのビーチで夕食をとった。そして、日没時にはサンセットベルという日没の時に鳴らす大きなベルを特別に鳴らせてもらい、夕焼けの景色も最高で、なんだか神秘的な気持ちになった。ビーチにはマーリーンの友達も来ていて、その人たちとたくさん話をする事ができた。みんなとても面白い人だった。会話を楽しんだ後は、ハンナと稲毛さんと3人で、服を着たまま海の中へ入った。青春って感じがして、すごく楽しかった。今日は色々動き回ったので疲れてしまった。おやすみなさい。

## 7月30日(月)



『サンケンガーデンズの植物』

朝、今晚のサンクスギビングのためのクランベリーケーキを焼いた。大量の砂糖、大量のバターを使っていたのでびっくりしたが、味見をしたらとても美味しかったので、目をつぶって思う存分食べることにした。それから準備をして、まずはダウンタウンの小型観光施設のピアへ。コロンビアという絶景の見えるレストランで昼食を食べた。ピアを少し回った後、水族館へ行った。マーリーンは海の生き物が大好きなので、とても楽しそうにしていた私まで楽しくなった。ピアを出てから Museum of Fine Arts

へ行った。外装に趣があって、素敵だった。マーリーンはガラス細工も好きらしく、そのコーナーを見て博物館を出た。今日はとても暑かったので、近くのジェラート屋さんで少し涼んだ後、集合場所の植物園サンケンガーデンズへ。そこは私が思っていたよりも広く、元気な植物が青々と育っていた。親善研修生で高松に来たことがあるフェイにたくさん写真を撮ってもらいながら植物園の方の説明を聞いて、植物園を見学した。いつもは通り過ぎてしまうような植物も、よく見るとすごく綺麗だったりして、植物への興味がわいた。サンクスギビングパーティではみんなが手作りの料理を持ち寄って、どれも各家庭の味がして美味しかった。同世代が一緒に席に座っていたので、高松に親善研修生として来ていたソロモンに日本の芸人の面白さを説明したり、フェイに日本語を教えたりして有意義な時間を過ごした。



『サンクスギビングでみんなと』

## 7月31日(火)

朝8時起床。今まで気づかなかったが、マーリーンはダイエット中らしく、朝ごはんはいつも食べない。そこから日本人とアメリカ人のカロリー摂取量の話で盛り上がった。昼食後ミリタリーミュージアムへ行った。広島原爆の事などが英語で書かれており、少しは理解できた。以前、そのミリタリーミュージアムには、軍人だったマーリーンのお父さんの手紙が展示されてあったらしいが、今はもう展示されていなかった。見たかったので残念だった。日本でも戦争関連の博物館は何度か行ったことがあるが、アメリカの軍事装備と見比べてみると、同じ時代でも全然レベルが違っていた。機械の精密さとか、戦車のつくり等すごくよくできていて、すごいなあと思ったが、日本に原爆を落としたことはやっぱり許せないとも思った。ミリタリーミュージアムのあとは1時間くらいかけてター





『アンドレアとたたいて、かぶって、じゃんけんぽん』けんぽん」を日本語でしたりして、やはり同世代と一緒にいるのはとても楽しいと感じた。みんなとは自然にコミュニケーションがとれるので色んな情報が入ってくる。今日も色んな表現を学ぶことができた。

## 8月1日(水)

今朝起きて、すぐ明日帰ることを思うといきなりブルーな気持ちになった。まだ帰りたくない。今朝はマーリーンがランチを作っているのを眺めながら少し話をしたりして、朝ごはんのジンジャーブレッドと昨日の残りのエビを食べた。アメリカでは、レストランで食事をして、食べ切れなかった分はパックにつめて持って帰るのが一般的だ。それから準備をして、武市君とハンナを迎えに行った。

そして今日はWeeki Wachee Springs State Parkのプールへ行った。プールについてすぐ、屋外で持ってきた昼食を食べていると、いきなりスコールが襲ってきてびしょびしょになった。スコールはすぐに止んだので、まずはショーを見た。女の人が人魚の衣装を着て水中でパフォーマンスをする、というものだった。水深が多分10メートルくらいあったので、私はパフォーマンスよりも人魚たちの事が心配だったので無事終わってよかったと思った。ショーのあと、武市君とハンナと3人でプールに入ったのだけど、ここのプールは川の一部を区切ってプールとして使っていたのですごく深く、下は砂で、魚やカメがプールの中を悠々と泳いでいた。とてつもなく冷たかったが、水泳部のハンナは素晴らしい泳ぎを見せてくれた。2時間位プールで遊んだ後、着替えてボートに乗って、今度は川下りをした。川の中にはたくさん魚がいて、水が澄んでいたのによく見えた。でも、ボートの操縦士さんによると、4日前にこの川に住んでいる野生のワニが川を上ってプールの敷地内に侵入して、ショーをしているところに突然ワニが登場したらしい。おお怖い。プールの後はマクドナルドに寄ってみんなでチーズバーガーを食べて、帰りにハンナを送りに行った。ハンナは明日の朝早くにテキサスに里帰りするというのでそこでお別れだった。なぜかその時全然実感が沸かなかったけど、今になってとても寂しい。最後に一週目のホストマザーのシェリルとホストブラザーのライアンにも会って、みんなとハグをして、写真を撮ってお別れした。夜は初めてマーリーンが手作りのディナーをふるまってくれた。そして荷造り。明日帰国するなんて信じられないし、信じたくない。

## 8月2日(木)

今日は帰国の日だったので、朝早くに市役所に行って、市長表敬をした。市長表敬の場には、市長さんだけではなくセント・ピーターズバーグ市の議員の方々もいらっしやって、



『市議会にてスピーチ』

そこで私たちはひとりずつ英語でセント・ピーターズバーグ市に来た感想や思いをスピーチさせていただいた。英語でのスピーチはケーブルテレビで生放送されていたこともあって、とても緊張したけれどうまくいった。スピーチの後には議員の方一人ひとりからコメントをいただいた。表敬の後一旦家に帰って荷物をまとめて、マーリーンのアパートに別れを告げ、最後の買い物をした。飛行機が一時間遅れたせいで少し時間を持て余したが、無事飛行機に乗ることができた。空港では、稲毛さんのホストマザーが私達4人にお



『稲毛さんのホストマザーからのプレスレット』

そろいのプレスレットをくれたりして、別れを惜しみ、ソロモンは私たちが見えなくなるまで手を振ってくれていた。飛行機に乗った今でもまだ帰国するという実感がない。だから、涙は出なかった。だけど、最後に今までサポートして下さったセント・ピーターズバーグ市役所のエリザベスとキムと別れるときには胸が感謝の気持ちでいっぱいになり、私は幸せだなあと実感した。機会があれば、またセント・ピーターズバーグに戻って来たい。ありがとう、セント・ピーターズバーグ。

## 感想文



高松第一高等学校 2年

久保 里都子

### 将来の自分、将来の高松市のために

アメリカに行って、とにかく、本当によかった！これが、私の率直な感想です。

セント・ピーターズバーグでは、日本では絶対にできないような経験をたくさんさせてもらいました。毎日新しい発見があり、ジェットコースターのように過ぎていったこの2週間分の思い出を抱えて、日本に帰ってきた私は、英語を話す能力を身に付けることができただけでなく、多くの人と英語で積極的にコミュニケーションをとろうと心がけたので、相手に合わせて話す口調や話題を選ぶことができるようになり、そのような点でひとまわりもふたまわりも成長できたと実感しています。

セント・ピーターズバーグでの一番の宝物は、1週目のホストシスターをしてくれたハンナと友達になれた事です。1週目だけでなく、2週目の行事にも殆ど参加してくれて、ハンナに会う度にいろんな話題で話をするのが楽しかったです。ハンナと話している時はなぜか口から英語がスラスラと出てきました。今回の研修で、私が目標にしていたのはとにかく英語を喋る！ということだったのですが、ハンナと話している時は英語を喋っているという感覚はなく、後から考えると、たくさん喋っていたんだという感じでした。日本語を話す感覚で英語を話す経験ができたことが嬉しく、この派遣での一番の成長だと思います。セント・ピーターズバーグはとても文化にあふれた街で、市内にはたくさん美術館や博物館があり、私もたくさん連れて行ってもらいました。そしてそこにはいつもたくさんの方々がいて、セント・ピーターズバーグ市民の文化的関心の強さにも驚きました。

生活面で困るようなことはほとんどなく、快適に過ごすことができました。セント・ピーターズバーグ市の皆さんは本当に親切で気さくで、初対面の方でも気軽に話しかけてくださる機会が多かったので、その度に海外の「あいさつ」の文化に感動しました。そしてなによりこの企画に関わってくださった方全員が本当に良くしてくださり、私たちを見守ってくださった事、どんなに感謝してもしきれません。この貴重な経験から、これからの私にできることは、高松市とセント・ピーターズバーグ市の親善を更に深めることを第一に、高松市の国際化のお手伝いを積極的に行うことだと思っています。まずは来年、1週目のホストシスターが私の家にホームステイしに来てくれるというので、そこで高松の魅力を十分にアピールしたいと思います。そして、留学に興味のある友達や後輩に積極的に私の経験を話すことで少しでもセント・ピーターズバーグ市に興味を持ってくれたら嬉しいです。このことが私の将来に役立つと思います。だから私は、これからの高松市のため、そして自分のために、高松市の国際化に貢献していきたいです。この企画に関わってくださった方全員に、感謝しています。本当にありがとうございました。

# 親善研修生 報告書 Ⅱ

II 舊書辦 坐對耶善辦

## 日誌・活動記録

高松商業高等学校3年 稲毛 香苗

### 7月20日(金)

#### 高松空港集合

みんなこれからの2週間に緊張した面持ちで集合。出発日までに食事会などを通して仲良くなっていたので4人共リラックスして話していました。説明や出発式を終えて遂に出発。でも、みんな緊張よりワクワクの方が上回っていました。

そして遂に日本を飛び立ちロスアンゼルスへ。自分達だけで乗り換えということで、少し手間取ってしまいましたが、なんとか見つけることができました。とても広いので外に出て他の建物に行かなければなりません。そしてその後マクドナルドで時間潰しをしました。やっぱりサイズが大きいのとバリエーションが豊富なところはさすがアメリカ！という感じでした。

### 7月21日(土)



『ホストファミリーと対面』

に豪華で、その家に行くまでに一回関門（そのの住民かどうかチェックする守衛がいる所）を通過し、そしてなんと家には個人用の夜にライトがつくプールもありました。湾に面していて、近所の家のほとんどの庭先にボートが停まっていた。ちょっとドライブではなく、ちょっとクルージングが現地では行われていました。

その日の朝早くに着いたので昼食を湾に面したスペースで食べ、そ



『ホストファミリーの家』

その後4時間弱のフライトから遂にセント・ピーターズバーグに到着しました。実は少し浮かれていて間違えて久保さんのホストファミリーのハンナと最初に挨拶してしまいました。急いで本当の家族と握手しました。私のところは2家族とも来てくれました。

そこで2週目のケリーとトムとお別れして1週目のジェーンとジェリーの家に。ホストマザーのジェーンは日系の生け花の先生で、日本の文化には大変興味を持っている方でした。二人の家は本当



『ホストマザーのジェーン』

の後キリスト教関係の集まりに参加しました。日本で言う1周忌の集まりで、親族のスピーチと会場に亡くなった方の写真を掲示するというものでした。日本ではあまり見ない光景だったので驚きましたが、自分もこのような会を開いて欲しいなと羨ましく思いました。

その後、家のプールで汗を流し、レイズの試合観戦に行きました。本当にVIP待遇でびっくりしました。まず関係者入口からグラウンドに

入れてもらって選手の近くで練習を見ることができました。なんとそこにマリナーズのイチロー選手（その試合が彼のマリナーズ最後の試合）と川崎選手がいて、見ることができました。その後松井選手と握手をして記念撮影もしました。彼の大きな体と雰囲気緊張して上手に喋られなかったです。

試合の前にみんなでおそろいのタトゥーシールを貼ったり（その後2週間ずっと跡が付いていました）、高松に親善研修生として来ていたフェイ、アンドレア、ヘイデンと夕食を買いに行ったりしました。試合中はスイートルームから優雅に観戦しました。いつもテレビで見ている選手が目の前で試合をしていると興奮が冷めませんでした。レイズは負けてしまいましたが、とても楽しむ事ができました。残念ながらその後のライブは睡魔に負けて参加できませんでした。



『タンパ・ベイレイズの試合観戦』

7月22日(日)



『ブッシュガーデン』

この日はホストマザーと一緒にブッシュ・ガーデンズに行ってきました。そこはテーマパークでローラーコースターあり、ショーあり、サファリエリアあり、1日でもいろいろなことができる所です。まず驚いたことは駐車場から入口まで送迎用の乗り物があるということ。確かに広いですが、さすががアメリカ人、歩くのがおっくうなのでそのような乗り物を使用するようです。まず私達はショーを見ました。男の人と女の人が歌って踊るというものです。自分が知っている曲も多く、つい口ずさんでしまいました。ゴーカートにも乗りました。私はどこの

ゴーカートでもクラッシュしてしまうほど運転音痴で、ホストマザーはもちろんですが、そこにいた子ども達にも次々に標的にされました。昼食はバーベキューリブという内容も量もアメリカンなものを食べました。自分はそれで精一杯だったのにホストマザーは倍近く量のサンドウィッチをペロッと食べていました。昼休憩の後は2つウォータースライダーに乗りました。最初に乗ったスライダーは、乗るのに1時間待たなければなりません。待っている間、ホストマザーと列に並んでいる人の観察をしました。前にいたグループの韓国人の韓国の話や、自分が学校を卒業する年を書いたTシャツ（class of 2013 など）を着ている人がいたのでその意味をホストマザーから教えてもらい、すごく勉強になりました。ウォータースライダーが一番後ろの席で、やや濡れという不本意な結果に…。次に乗ったスライダーは、二人乗りで、しかも私が前だったので、服もカバンも濡れてしまいました。でもその日はすごく暑かったので、すごく気持ち良かったです。その後はテーマパークを一周できる列車に乗り、サファリエリアを見ました。それは本当に奇妙な感じでした。なぜならローラーコースターを見たちょっと後にキリンやシマウマがいるところを見るからです。フラミンゴのような鳥もたくさんいました。本当はその後、



『ブッシュガーデンのフラミンゴ達』

怖いという噂の90度に落ちる sheikra に乗る予定でしたが、突然の雨で列の途中で運転中止になったので内心はちょっとだけほっとしました。

## 7月23日(月)



『ビーチで貝殻集め』

朝6時に起床してビーチに貝殻を集めに行きました。水が透明でビーチの砂も綺麗でした。人生2回目の海だった私は最初貝殻を見つける事ができませんでした。ホストマザーがいろいろな種類を取っていく中で私は白くて大きい貝殻だけ…少し悲しかったです。少しずつ慣れてきたところで潮が満ちてきて帰宅することになりました。結局10個以上の様々な貝殻を採れました。

本当はこの日、クルージングの予定が雨でキャンセルになったので、「ドルフィン テール」という映画に取り上げられたイルカの所に行きました。ウィンターは傷つき尾を

失ったイルカです。彼はクリアウォーター マリン水族館という所にて、そこは、ウィンターを始めとする傷ついた動物の保護をしていました。また海洋生物の説明をしてくれるコーナーや魚に触れるコーナーなど高校生でも楽しめる所でした。驚いたのはホストマザーが海の生物をよく知っていたことです。分からない魚はありませんでした。そんなホストマザーは「たこ」「たつのおとしご」という日本語を教えると嬉しそうに何度も言っていました。

昼からは市役所に行ってコマーシャルを撮りました。みんなまで1行ずつセリフを言うのですが、思ったより難しくNG

を出してしまいました。本当に自分の滑舌の悪さと発音の悪さに泣かされました。それでもカメラマンの方が盛り上げてくれたので人生初のコマーシャル撮影は楽しかったです。

その後は、小さな待機室で国際交流に関わっている方々と話をしました。武市君のまだ幼いホストブラザーとシスターが来ていて賑やかでした。

その日の夕食はホストマザー特製のラザニアでした。ホストマザーは料理の達人で自分で作った分厚い料理本片手に作り方を教えてくれました。すごくおいしくてすごい量だったのですがペロリと食べてしまいました。



『イルカを見るため水族館へ』

## 7月24日(火)

この日もう一度早く起きてビーチに貝殻を取りに行きました。前日より早い時間だったのですが、その日は海が荒れていてあまり収穫できませんでした。

朝はショッピングモールで買い物をしました。そこには、H&Mやforever21など自分の好きなブランドがたくさんあり夢のような時間でした。最初に靴売り場に行って、ホストマザーと店員さんのほめ言葉につられてTOMSの靴を買いました。次にアメリカンイーグルスでセールだったサンドレスを



買いました。その時サイズがわからなかったので試着することに。アメリカで一般的なサイズは5との事。すると自分のサイズが2だったので嬉しかったです。後は、ビクトリアズシークレットというお店に行きました。ここでは友達にお土産を買いました。他にもインド式の眉毛処理を見て二人で呆然となりました。あまりの衝撃に二人とも言葉が出ませんでした。

そして昼からはフロリダ水族館に行きました。ここは水族館ですが、魚介類だけでなくワニやペリカンなど水に関わる動物がいました。他の魚を食い尽くしてしまう

危険な魚や見たこのとのない深海魚など今まで興味がなかったものも面白く感じ、もっと知りたくなりました。ただこの水族館は広くて入り組んだ迷路のようで迷ってしまいました。

その後動物園に行こうとしたのですが、動物園の辺りは雨だったので近所のマンションに住んでいるホストマザーの友達の所に行きました。訪ねた先にはおばあちゃんとおじいちゃんがいて温かく迎え入れてくれました。おばあちゃんは仏陀に興味があるらしく、部屋中にそれ関係の物がたくさんあり



『ホストファーザーのジェリー』

りました。感動したことは、その部屋からの景色です。6階だったのですが少し先の湾までばっちり見えて見晴らしも良く最高でした。また後から他の友達も来て4人で年代と国籍を超えたガールズトークをしました。後から来た女性は元モデルさんで綺麗でした。ただポーランド出身で少しなまりがあるので時々分からないことがありました。短い時間でしたがとても盛り上がり、4人とも常に笑って

いました。夕食は飛行場のハンガーというレストランで食べました。そこはすぐ近くでヘリコプターなどが離着陸していて迫力がありました。料理もすごく美味しかったです。

夕食後は、家のプールで運動しました。泳いだり、ホストマザーと話したり、やっぱり話すのは恋の話。二人の出会いや今までのことを話してくれてすごく嬉しかったし、羨ましかったです。

## 7月25日(水)

朝にご近所の人クルーザーでクルージングに行きました。その時見た湾に面している家は本当に豪華で大きかったです。家がある近くではあまりスピードを出しませんが、広い所に出るとフルスピードだったので体の上下の揺れが尋常ではありませんでした。私以外の人は慣れているので普通でしたが、私は船酔いの一歩前でした。それでも綺麗な海を颯爽と突っ切っていくのは何ともいえない幸せでした。また機会があれば体験したいです。

その後、地元の古着屋とセレクトショップに行きました。古着屋ではホストマザーが子どものころハワイで着られていた服を見つけ喜んでいました。セレクトショップは一つひとつがリメイクや輸入品などで可愛かったです。可愛いと思ってとった弁当箱が日本製だった時は感動しました。



『世代を超えた友達』



『クルージング』

帰ってからは急いでお好み焼きを作りました。人生で後にも先にもあの時のお好み焼き作りが一番大変だったと思います。なぜなら32人前を1時間ですべて作らなければならなかったからです。もう最後に焼く時は半泣きになりながら焼きました。ホストマザーも手伝ってくれたのですが、結局2時間かかりました。ホストマザーは手伝いながらおにぎりを作っていました。「具は何を入れるのがいいか」と聞かれたので、「食べられればなんでもよし」と冗談で答えたら嬉しそうに本当に「なん



『ハンナと私』

でもおむすび』を作っていました。見た限りではたくあん、納豆、お肉がランダムに入っていました。

このような騒ぎがあったので少し遅れてセーリングパーティーに着きました。人生初のセーリングで、とてもドキドキしましたが、モーガンという素敵な女の子の引率で一度乗ってみるとすごく楽しかったです。すごく気さくに話しかけてくれてアメリカの大学や高校のことも知ることができました。

その後夕食を食べたのですが、みんなで持ちよった料理はどれも美味しく普段は考えられない量を食べました。それに私のお好み焼きも好評でほっとしました。同世代のみんなと一緒に食べたのですが、みんな優しく面白いので話が尽きることはありませんでした。特に私が変顔をするたびに喜んでくれたので、嬉しかったです。ハンナとフェイとヘイデンはこの時から私の顔を見る度に笑うようになりました。特にハンナからはなぜ毎回変顔をするのか不思議がられました。

## 7月26日(木)



『ダリミュージアムのエントランス』

1週目最後の日…

早かったです。もうあっという間に過ぎて行きました。

朝はダリミュージアムに行きました。日本語のガイドがあったから分かったんだろうなあという絵が多かったです。やはり見たものを違う視点から描くので見ているうちに、これは何だろうと考えるのが楽しくなり最終的にはダリのマジックにかかっていたと思います。中も楽しかったのですが、外から見る美術館も綺麗でした。庭にダリの鬚があつたりして細かなとこまで可愛かったです。

その後は街観光も兼ねたバスに乗りました。小型観光施設のピアの方に行ったり街中を通ったりいろいろな所を見ることができました。どこか高松に似ていて親近感がわきました。

昼食はギリシャ料理を食べました。そこで従業員の人たちが踊りだした時はびっくりしました。その上男の人がナプキンをばらまいて店中を回っていたので料理どころではありませんでした。日本では絶対にありえない光景だったので見られて嬉しかったです。

その後はホストマザーと合流して美術館に行きました。入ってすぐに「踊るシバ神」を見られたので嬉しかったです。他にも現代アート、ガラス容器、古代文明の物など多様なジャンルの物が展示されていました。特にガラス細工は目を奪われました。ガラスなのに宝石のように光輝いていたのです。特別光りものが好きな訳ではないのですが、どの女性も心を奪われる美しさでした。



『ケーシーと』

その近くのジェラート屋さんでホストファミリーの義娘さんとお孫さんにも会いました。お孫さんはケーシーという名前でバレーのナショナルチームに所属している、16歳の女の子です。私より2歳年下なのにバレーをしているせいか背が高くしっかりした印象でした。学校で人気のスポーツや音楽などの話をしました。やはりアメフトがアメリカの高校では人気だそうで、日本の高校にはアメフトはあまりないと言うと、とてもビックリしていました。その他にも日本の塾について驚いていました。特に受験生の勉強量は考えられない量だそうです。まだまだ話足りないくらい盛り上がりました。

その後、家にいったん帰り、2週目のホストマザーとの待合わせ場所に行きました。次の家に行くまで、研修生4人とフェイ、ハンナといういつものメンバーで井戸端会議をしました。このころにはみんな打ち解けて冗談を言い合っていました。

みんなと別れた後、2週目のホストファミリーのトムとケリーとその姪のケイリンとアビーと夕食を食べに行きました。選択ミスをしてすごく辛いチキンを頼んでしまい、みんなと一緒に食べてもらいました。

## 7月27日(金)

朝からエクササイズに行きました。YMCAというジムにホストマザーと行ってそこでケイリンとエミリーと合流しました。私達が取ったのはエアロビのクラスで、初心者から上級者まで一緒のクラスだったので私にとっては終始苦痛でした。エミリーは体操選手なので、難なく腕立て伏せもしていたけれど、私にとっては腕立て伏せさえも満足にできなかったです。もっと運動しなければと思い直しました。

みんなとお別れしてスーパーに買い物に行きました。ここはオーガニックを基本とする野菜や肉を売っていました。ホストマザーが言うにはそこは他の所よりも品ぞろえが少ないということでしたが、自分には、量が豊富で1個1個が大きかったです。果物を選ぶ時も迷って大変でした。そして、ケーキなどの生クリームの量が尋常ではなく、何にでもクリーム、チョコレート…。甘いものが苦手な私には考えられない光景でした。

昼からは陶芸教室に行きました。久保さんとハンナと3人で参加しました。まず、屋内で容器に色塗りをしました。それぞれの個性が出て面白かったです。その後外に行って色塗りをした容器を焼きました。焼き終わるまで3人で話をして、盛り上がりました。焼きあがって窯から取り出す作業は自分ですが、炎が大きく見ているだけで怖かったのでドキドキしました。作品は綺麗にできました。この教室では終始ボランティアをしている地元の高校生が手伝ってくれました。丁寧で優しく接してくれたので最初緊張していたのが嘘のように楽しめました。アメリカでは多くの高校生が長い休みを使って色々なボランティアや活動に参加している姿を見て、このような体験を日本でも



『初の野外コンサート』

できるようにして欲しいと思いました。

夜はコンサートに行きました。野外でカントリーミュージシャンのコンサートでした。彼女のことは分からなかったのですが、歌がすごく上手くて惹きこまれました。すごいパワフルで楽しいコンサートで大満足でした。

## 7月28日(土)

朝からマクドナルドハウスでボランティアをしました。そこは病院に入院している子どもの家族の宿泊施設で、ホストマザーがそのスタッフだったので連れて行ってくれました。最初にハウス全体を案内してくれました。どこも清潔でアメニティグッズも充実していました。もちろんそれらは寄付です。会議室に行った時、机にドナルドが寝そべっていたのは恐怖でした。その後ボランティアとしてキッチン周りの掃除をするなど、想像以上の達成感があり、初めてのボランティアはあっという間に終わりました。やはり日本よりアメリカの方が制度や環境が整っています。日本ではボランティアへ参加する機会は少なく、また私達はそのような事への参加に消極的過ぎると思います。やろうと思ったらすぐ実行



『マクドナルドハウスでのボランティア』

という行動力と積極性を身につけなければならないと実感しました。お昼はタコスを買いました。お店にはいろいろな辛さの種類ソースがあって自分のタコスにセルフで付けるようになっていました。ちょっと好奇心で1番辛いソースをテイスティングしたのですが、本当に辛すぎて舌がおかしくなりました。そのソースの名前は「death (死)」。激辛なものも納得です。

昼からはみんなと合流して演劇鑑賞をしました。ちょうど今年の親善研修生のソロモンが東京から帰ってきていました。公演前に俳優さん達と会い、セットにも立たせてもらいました。演劇は「ザ・フォリナー」という題で、ある男が外国人のふりをして人々と交流していくというコメディでした。本当に俳優さんが面白おかしく言うので英語が聞き取れなくても笑ってしまいました。彼が自分の出身地をごまかす所あたりは本当に笑いが止まらなかったです。

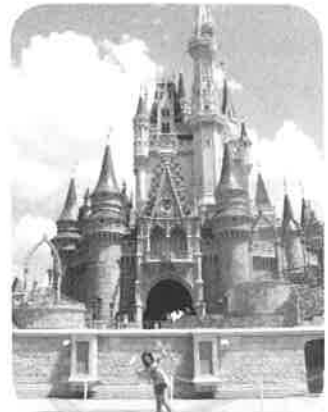
夕食は同世代だけでファイブバーガーで食べました。なによりここのバーガーは大きいです。普通サイズが私にはビックサイズ、スモールサイズを頼んだのですがそれでもやはり厳しいものがありました。

夜はサッカー鑑賞をしました。ローディーズという地元チーム対カナダのチームの試合でした。試合前みんなで緑のペイントを顔に塗りました。試合中は地元応援団に交じって応援をしました。飛んだり、跳ねたり、叫んだり…本当におもしろかったです。それに試合も勝ったので良かったです。

その後ホストマザーの友達とその姪のジェイニーと一緒にジェラートを食べに行きました。ジェイニーはニューメキシコに住んでいる15歳の女の子です。明るくて陽気な彼女は、とても気さくに話しかけてくれました。ジェイニーはバスケットボールをしているらしく私もバスケットボール部のマネージャーだったのでそのことについて話しました。本当に優しく可愛かったです。

## 7月29日(日)

この日は朝からディズニーワールドに行きました。メンバーは私、眞鍋さん、眞鍋さんのホストシスターのリサ、リサの友達の4人でした。リサはまだ16歳なのですが、ジープに乗り、ヘリの操縦をするという女の子。2時間かけてオーランドにあるディズニーワールドまで運転してくれました。ディズニーワールドは想像を超える大きさと、入口までにバスやら、モノレールやらに乗りなけりばならず遠かったです。パークに着くとリサと友達と昼食まで別れて行動をしました。昼まで時間がなかったのでファーストパスを取ってお土産物屋さんを見て回りました。この時期は1年でもっとも観光客が多い時期でどこも人が多くて移動するのは一苦労でした。昼食を食べた後は2つ乗り物に乗りました。1つはスプラッシュマ



『フロリダのディズニーワールド』



『夢のようなパレード』

ウンテンです。ファーストパスを取っていたので10分くらいで乗れました。次にビッグサンダーマウンテンに乗りました。その後はお土産探しをしました。どこの土産物屋さんも可愛くていろいろ目移りしてしまいました。お菓みに文房具にタンブラー、どれも買ってあげばよかったと後悔です。その後、偶然パレードが来ていたので写真を撮るたくさん撮りました。ミッキー、ミニー、シンデレラ etc、夢の世界にいたようでした。時々こっちを向いて手を振ってくれたのですごく嬉しかったです。

帰ってからはサンセットベルに行きました。そのベルを鳴らすと名簿に名前がのりずっと保管されるそうです。私がトップバッターだったので緊張したのですが、無事15回ベルを鳴らせました。ちょうどハンナと久保さんが来ていたので3人で海に服を着たまま足をつけに行きました。最初は大人しくしていたのですが、最後にはテンションが上がって3人で水の掛け合いをしました。本当に頭からつま先まで濡れてしまいました。でもすごく楽しくて、青春！という感じでした。



『サンセットベル』

## 7月30日(月)

朝は学校ツアーをしました。まず、ケイリンが通っている公立のセント・ピーターズバーグ高校に行きました。そこはすごく伝統があり、教室も3~4棟に分かれ、しかも廊下が屋外でした。本当に日本の高校とは全く違う設備でした。イメージキャラクターがデビルということもあり、いたるところにデビルがいたのもおもしろかったです。ツアーの途中ケイリンのスペイン語の先生に会いました。二人が気軽に話している姿を見て驚きました。以前からあまり先生と生徒の壁はないということは知っていましたが、実際に見るとやはりカルチャーショックでした。最後に事務室に行った時ケイリンの通知表を見たのですが、あまりの好成績にまたショックを受けてしまいました。彼女はIBとい

う難しいコースにいるにも関わらずほぼオールAという成績でした。



『喋るインコ』

次に家の近くの私立高校に行きました。まずホストマザーと二人で感動したのは事務所に行くと、校長先生自らが校舎を案内してくれたことです。そして、言うまでもなく校舎はきれいで最新のパソコンも完備されていました。この学校は少人数指導なので1学年80人ほどらしいです。(セント・ピーターズバーグ高校は200人)1年間の学費が普通の私立大学よりも高かったのにも驚きました。

ドレスアップした後は植物園ツアーに行きました。様々な木々や植物があって勉強になりました。そこにあった日本風の鯉の池も妙にマッチしていておかしかったです。

最後にサンクスギビングパーティに参加しました。私達は同世代の席で楽しみました。この時一番盛り上がったのはブラックジョークでした。やっぱり世界共通でこの話題が好きなんだと思いました。セント・ピーターズバーグ市長はとても気さくで、なんと武市君の口に溢れんばかりにホイップクリームを入れました。料理も各家庭が作ってきていたものだったのでバリエーション豊かでどれも美味しかったです。この時本当にセント・ピーターズバーグ市の人々の温かさに触れることができ、ここに来て良かったなあと思っていました。



『サンクスギビングパーティー』

## 7月31日(火)

朝から武市君と一緒にエリントンアウトレットモールに行きました。買い物する機会ももうないだろうと思いきや残りのお金を殆ど使ってしまった。

帰ってきてから海で泳ぎました。その日は、波が強く、ボディボードに乗っているとすぐに流されてしまいました。そして、波に揺られつつふたりで大学受験について語りました。アメリカに来てまでそのことについて話すとは思っていませんでした。

夕方からソロモンのパーティーに行きました。ソロモンの家のプールで同世代のみんなだけで遊びました。水の掛け合いやシンクロナイズドスイミングをまねたり…本当に楽しかったです。夕食の時にはヘイデンも加わって、最後に遅れて久保さんも到着しました。その時はちょうどロンドンオリンピックの体操と水泳が放送されていたのでみんなでテレビ観戦をしました。その後たたいて、かぶって、じゃんけんぽん大会をしました。ヘイデン対ソロモンの時ふたりとも白熱すぎて相手の頭をこれでもかかってくらい叩いていました。

## 8月1日(水)

その日は眞鍋さん、私、ジェイニー、ケイリン、ケイリンのいとこのケイラとシャノンでアドベンチャーアイランドに行きました。車内でシャノンに梅のお菓子をあげました。始めは大丈夫だったのですが、途中から口に合わず、呑み込めなかったようでした。やっぱり梅は不人気でした。この日は雨で、そこに行った時も少し曇っていましたが、案の定運転ストップで20分くらい再開を待ちました。再開した後は、流れるプールに行きました。みんなで浮き輪に乗ってすすむのですが、みんな苦戦していました。流れがバラバラで合わせるのが難しかったです。その後大きなスライダーに乗りました。

すごく高い所から結構な早さで滑るのですが、怖いというよりは楽しかったです。その後、ジェイニー、眞鍋さん、私で海に行きました。泳いだり砂浜に寝転んだり、本当に気持ち良かったです。

ホストマザーの提案でお姉さんのカレンの家を訪ねました。ボードを漕いだり、デッキからみんなで飛び込んだりいろいろ楽しい時間を過ごしました。

## 8月2日(木)

とうとう最終日がきてしまいました。

朝から市長訪問をして無事お土産を渡すことができました。ここでスピーチがなかったのも、てっきり今年はスピーチがないものだとも4人で思っていました。しかし実際にはテレビが入っている市議会でスピーチをすることになっていました。声が震えて、顔も引き攣ってしまいましたが、なんとか形にはなったのでほっとしました。私達のスピーチの後、市長さんが私のタトゥーシールの跡のことを言った時はビックリしました。まさかあの大人数の前で披露するとは思っていませんでした。

午後は本屋さんに行きました。ホストマザーが薦めてくれた本ともう一つ面白そうな本を買いました。そこは古本屋も併設されていてすごく雰囲気も良かったです。

そして遂にタンパ空港に行く時間がきました。本当にあっという間のアメリカ滞在。空港には1週目のホストマザーのジェーンも来てくれて最後の挨拶ができました。ケリーと別れる時は本当に悲しくて泣いてしまいました。「いつでも来ていいよ」と言ってくれた時は本当に帰りたくないと思いました。ソロモンもいつまでも友達だからと言ってくれました。最後までお世話をしてくれたセント・ピーターズバーグ市役所のエリザベスとキムと別れる時、本当に帰るんだと思うと寂しかったです。

そこから羽田までは少しトラブルもありましたが、無事帰ることができました。2週間ぶりに羽田で食べた天井はおいしかったです。本当に楽しかった2週間。すごくセント・ピーターズバーグが好きになりました。絶対将来また訪れたいと思います。



『タトゥーシールの跡』

## 感想文



高松商業高等学校 3年

稲毛 香苗

### アメリカで学んだこと

私はこの派遣事業に参加できて、本当に良かったと思っています。なぜなら、この経験を通して多くの事を得ることができたからです。

実は私はこれが2回目のアメリカでした。そこで私は英語力の向上はもちろんですが、現地の人とできるだけ会話をして意見交換をしつつ、初めての事にも挑戦しようと思っていました。

まず、意見交換という面では、今年親善研修生として高松市に来たヘイデン、ソロモンを始めとして多くの若い人たちと話す機会がありました。そこで、学校、教育制度、将来についてなど様々な事について相違点を話しました。私が特に驚いたのは、現地の高校生は政治や国の事についてきちんとした考えを持ち、意見を言えることです。私達よりもよく新聞やテレビを見て勉強しているそうです。逆に、驚いたのは大学の入学制度です。塾に毎日行く人がいるということと言ったとき信じられないという顔をしていました。また、私のどちらのホストマザーもいろいろなことを教えてくれました。2週目のホストマザーが教えてくれた大統領選についての話は特におもしろかったです。全体を通して私と話して下さった方は私の意見を尊重し、どんな話題でも詳しく答えてくれたことにとっても感謝しています。分からないことがあれば、例を出して具体的に説明してくれたり、ゆっくり話してくれたり気遣って下さいました。次に、初めてのことに挑戦するという面ではホストファミリーの協力でボランティアをすることができました。患者の家族のための宿泊施設のマクドナルドハウスでの清掃です。仕事こそ単純で簡単ですが、協力やボランティアの大切さを知ることができました。現地で活動していたボランティアの方々が行っていた工夫を自分も見習って将来活動する際に役立てたいと思いました。

これら以外にも、現地で経験し、感じたことはたくさんあります。それらすべてにホストファミリーや現地の友達の優しさを感じることができました。そしてエリザベス、キムをはじめとする多くの職員の方に助けていただき無事に2週間過ごすことができました。これらの素晴らしい経験を絶対に将来の糧にしたいと思います。そして最後に、私達のサポートをして下さった皆さんありがとうございました。





親善研修生 報告書 III

新編晉書

## 日誌・活動記録

高松商業高等学校3年 眞鍋 璃々子

**7月21日(土)**

高松 - 羽田 - ロサンゼルス - タンパ

ロサンゼルスでの乗り継ぎ場所が分からず、警備員3人の方に質問してやっと分かった。1度外に出なければならなかったのだ。外は寒かったけど、羽田からロサンゼルス間のフライトが一番肌寒かった。ロサンゼルスとタンパ間のフライト中、朝日が出てくる光景が素晴らしかった。窓からフロリダの自然豊かな風景を見ることができて、ワクワクが止まらなかった。タンパに着くとセント・ピーターズバーグ市役所のエリザベスさんとキムさんが迎えに来てくれた。モノレールで移動し、ホス



『ホストマザーのマンジュラと』

トファミリーといざご対面。私の最初のホストファミリーはキム夫妻。ホストマザーのマンジュラが私を迎えに来てくれた。彼女は76歳には見えないほどパワフルで楽しいインド人だった。家に着くとホストファーザーのフィリップがいた。とても優しい人。マンジュラは昔、英語の教師をしていたので私に発音、文法、勉強の仕方などをホームステイ中に優しく教えてくれた。フィリップが私を散歩に連れて行ってくれた。フィリップは蜘蛛の巣を見せたかったらしい。そしてたくさんおしゃべりをした。なんとフロリダの真冬は数週間しかないらしい。フィリップは香川についてよく知って



『ホストファーザーのフィリップと』

いた。そして3人でスターバックスのコーヒーを飲みながらお話しした。宗教について意見交換。彼女は、宗教はソーシャルコミュニティーでしかないと話していた。私は日本の宗教的感覚について話した。「Free of thinking(思考の自由)」私たちの考え方はよく似ていた。この家の神は象。家の家具のほとんどは象だらけ！商業の神、学問の神とされているガネーシャについても説明してくれた。お土産の和三盆、扇子、水まんじゅうを渡したら気に入ってくれた。午後、レイズの試合観戦



『家の中にある象の置物』



『コンサートにて』

に行ったがセント・ピーターズバーグ市のテレビカメラがずっと私たちを撮影していた。対戦相手はマリナーズ。なんと松井選手と交流できただけでなく、イチロー選手のマリナーズ最後の試合も見ることができた。以前、親善研修生で高松に来ていたフェイとアンドレアと友達になった。彼女たちの会話のスピードはとんでも速い。試合結果はレイズの負けだったが、とてもよかった。試合後、コンサートがあった。私以外の3人は家に帰ってしまったのでフェイたちとコンサートへ。3人でダンスしたり歌ったり写真を撮ったりとても楽しかった。

## 7月22日(日)

朝、マンジュラと小さなオーガニックマーケットに行って、オバマ大統領の地方事務所に寄って、かわいい雑貨屋さんでノートを買った。そしてランチにサンドイッチを買って帰宅。私の大好きな映画の「ブラダを着た悪魔」を観ながら食べた。そして“peoples and places of the past(過去の民族と場所)”という人類の誕生を描いた本を読んだ。そしてスニーカーをはいてマンジュラと散歩。夜はペンネとサラダ。フィリップと楽しく談話。彼の話は面白い。台湾での出来事について話してくれた。

## 7月23日(月)

フィリップが車でタンパにあるインターナショナルプラザに連れて行ってくれた。お店でネイティブアメリカンが着けそうなネックレスを買った。とってもショッピングは楽しい。お昼の後マンジュラがお花屋さんに連れて行ってくれた。彼女が描いた絵なども売られていた。チョコレート屋さんもちらっと見た。とってもかわいいチョコがたくさん。そして市役所へ。コマースの撮影で、とても緊張した。私のフレーズは「We are happy to visit a beautiful city of St. Petersburg, Florida!(私たちはこの美しいフロリダ、セント・ピーターズバーグ市を訪れることができ



『市役所でCM撮影』

てうれしいです!)」NGがたくさんあったけど、みんなでなんとか頑張った。フェイは市役所でインターンをしていたので私たちの撮影にも付き添っていた。フェイは分厚い日本語の文法書を片手に「私たちに日本語を教えて」と言っていた。日本語を英語で説明するのは思ったよりも難しかった。フィリップがお迎えに来て、ダウンタウンにあるお店でガーリックトーストを買って帰宅。食事後、イルカを見に海岸へ。2匹のイルカをみる事ができた。浜辺近くには戦争中に使用されていた大砲がいくつかそのまま保管されていた。浜辺ではかわいい貝殻集め。小さい貝殻をたくさん拾った。

## 7月24日(火)



『太巻き寿司』

9時に起きて、何か所か店に立ち寄り、シリアルやM&Mやハーシーズなどのチョコなどのお土産も買った。そのあと近所にある私立大学の図書館を見学した。横が湖でとても静かできれいだった。帰宅して、太巻き寿司の白ごはんの用意。うまく炊けて一安心。でもお酢をどれだけ入れても日本の酢飯のような酸っぱさがあまりなかった。残念。具はキュウリ、パプリカ、ゴマ、インゲンをいれた。喜んで食べてくれて嬉しかった。成功!

## 7月25日(水)

8時に起きて、Kahwa Coffeeというセント・ピーターズバーグ市の中にいくつかあるコーヒーショップに行った。大学生がたくさんいた。コーヒーがとってもおいしかった。そこでフランスからきた男性と話した。彼は留学生で、日本のデザインに興味があると話していた。とてもいい人だった。その後、本屋に行ってTwilightシリーズを三冊購入し、あと3Dで天使が浮き出てくるしおりの買った。そして、小さな美術館に行った。個性的で素敵な作品があった。家に帰って早速本を読んだ。そしてマンジュラとゲームをした。英単語をつなげていくゲームでとても難しかったが、勉強になった。そのあと教育について話をした。彼女が小さい頃、母親が彼女にしていた教育が私の母が私にするものと同じで、話が弾んだ。



『本屋で購入した本』

17時に今年高松市に研修生として来ていたヘイデンの家族主催のセーリングに。初めてのセーリングだった。海風が気持ちよかった。ヘイデンがタンパベイなどの地名を教えてくれた。その後は各家庭の料理を持ち寄ってのパーティー。みんなで話すのはとても楽しかった。家までは歩きで帰った。

## 7月26日(木)



『ダリ美術館』

10時からダリミュージアムへ。日本人ガイドの方とキムさんとセント・ピーターズバーグ市のテレビカメラが一緒だった。今までダリの作品は見たことなかったけど、説明を聞いていて、とても奥が深いなあと感じた。そしてダウンタウンをめぐるバスに乗ってみんなでAcropolis Greek Tavernaというギリシャ料理のお店に行った。わたしはそこでマヒマヒという魚のサンドイッチを食べた。味はアジみたいで美味しかった。今回が初めてのギリシャ料理だったけれどとても気に入った。サンドイッチは大きすぎて、ナイフとフォークを

使って食べた。最後にチーズケーキ、チョコケーキ、レモンケーキを4人で分けた。セント・ピーターズバーグ市役所まではみんなで歩いて帰った。マンジュラが迎えに来てくれた。家に帰って、荷物をつめて、クラフツマンギャラリーへ。そこは手作りの手編み雑貨がたくさんあって、とてもかわいいお店だった。今日はホストファミリーが変わる日。2番目のホストファミリーのダイアナとサラに初めて会った。ダイアナは弁護士で、サラは高校2年生。サラはフランスに交換留学で2週間ホームステイをしたと話していた。ダイアナは昨年、高松に来たと言っていた。2人とも高松に興味があり、私を本当の家族の1人として受け入れてくれた。サラはジムに行き、ダイアナとオーガニックスーパーに寄って、家に着くと、そこはなんとコンドミニウム。ホテルみたいで、プール、図書館、ジムとなんでもある。バルコニーからは海も見



『ホストシスターのサラと愛犬プー』

えた。ダイアナが白身魚のフライとブロッコリーのサラダとチェリーを夕食に作ってくれた。とてもおいしかった。そして3人で計画を立てた。そのあとダイアナと犬のブーの散歩。ダウンタウンはお洒落な人がたくさんいて素敵だった。

## 7月27日(金)



『いざ出発』

サラのお父さんに会いに彼のいるオフィスへ連れて行ってくれた。とても楽しい人だった。そしてダイアナと合流してタイ料理のレストランへ。食後、ダイアナと私はガラス美術館へ。すべてガラスでできた作品を展示していて、とても素敵だった。海をイメージして作られたオブジェは息をのむほど素晴らしかった。次にタンパに移動してタンパ美術館とフロリダ写真美術館へ行った。タンパ美術館は現代的な美術館で、フロリダ写真美術館は白黒写真の美術館でとても素敵だった。

今日は3つも美術館に行くことができとてもうれしかった。そして時間があつたのでアウトレット



『タンパ美術館』

モールに行って買い物を楽しんだ。ダイアナはとてもハッピーで楽しい人。そしてダイアナとディナーへ。イタリアンレストランで小型観光施設のピアのすぐ近くだった。私はピザを食べた。とても美味しかったけどお腹がいっぱいになって半分しか食べることができなかった。残った半分はボックスに入れて持って帰った。家のリビングでダイアナと一緒にロンドンオリンピックの開会式を見た。ダイアナがイギリス王室御用達のティーカップにイギリスの紅茶を入れてくれた。とても可愛かった。

サラが通う、飛行訓練センターへ私を連れて行ってくれた。彼女の先生は、ミサさんという日本人だった。彼女は私と同じぐらいの歳にアメリカに渡ったと話してくれた。昨年、高松とセント・ピーターズバーグ市が50周年を祝う際、高松市から来た方を私と同じようにセスナ機に乗せたと話していた。30分程度のフライトだった。セント・ピーターズバーグ市の街、海、自然、小さな島々すべてを見ることができて、とても嬉しかった。

その後サ



『セスナ機からの眺め』

## 7月28日(土)

朝起きて、ダイアナと3階にあるプールに行った。日も照ってきて、プール日和だった。ファッション雑誌を読んだり、泳いだり、リラックスしたひと時を過ごした。その後着替えて、サイクリングへ。海岸沿いや住宅地などを30分くらいかけて回った。そしてシャワーを浴びて、昨日残しておいたピザを食べながら、3人でオリンピックを観た。その後、アメリカンステージという劇場で「ザ・フォリナー(外国人)」という題目の演劇を観た。すべてを理解するのは難しかったけれど、前半が終わっ



『ホストマザーのダイアナと』

ての途中休憩の時に、フェイが色々と内容を詳しく説明してくれたので後半はもっとよく理解して、楽しむことができた。17時くらいに終わって、ダイアナの車に乗って、帰宅。私の大好きな白身魚とご飯と野菜炒めを作ってくれていた。その後サッカースタジアムへ。ローディーズという地元のチームの応援をした。日本人選手も2人いた。みんなで歌って、叫んで、動いて、前半は1対0。後半も守りきって、勝利。時間も遅かったので試合後はみんな各自で帰った。私はセント・ピーターズバーグ市のキムに送ってもらった。家に帰るとダイアナが私にバラの

チョコレートをプレゼントしてくれて嬉しかった。

## 7月29日(日)

朝はダイアナとコーヒーショップに行った。ここのコーヒーはとてもおいしい。そして家に帰って準備をして、サラと車に乗って、彼女の友達のリビーと稲毛さんと一緒に、いざ、ディズニーワールドへ。だいたい2時間の道のりだった。到着すると人がいっぱいだった。ローラーコースターは2つ乗った。パレードもたくさん見ることができた。ディズニーワールドにいただけで、とてもハッピーな気持ちになった。



『稲毛さんと』

日本から来た人もちらほら。様々な言語が飛び交っていて、新鮮

だった。そして帰り際にはみんなへのお土産も買えた。やっぱり、ディズニーワールドは夢の国だった。帰宅すると、ダイアナが白身魚とご飯とブロッコリーのディナーを用意してくれていた。夕食後、映画を観ていたら途中でサラの友達が2人来て3人でクッキーを作っていた。私も少しの間だけおしゃべりをした。自己紹介の後、サラに飛行機に乗せてもらったこと、ディズニーワールドに行ったことなどセント・ピーターズバーグ市で滞在中にしたことを話した。2人ともとても熱心に話を聞いてくれて嬉しかった。その後3人は友達の家遊びに出かけたのでダイアナとドラマを観た。この日は早めに就寝。



『ディズニーワールド』

## 7月30日(月)

今日は、11時半ぐらいに家を出発して、私、ダイアナとサラの3人でインターナショナルプラザへ。着いたらイタリアンレストランに入った。昼食後 TOMS のシューズを買って、サラとショッピングへ。同世代のみんなとのショッピングはとても楽しかった。帰りに、ガソリンスタンドで給油した後、カーウォッシュで車体を綺麗にした。日本のものと唯一違う点は、洗剤の色がとてもカラフルなこと。色



『サンケンガーデンズ』



とりどりの洗剤が窓いっぱいについた時はびっくりした。その後、サンケンガーデンズ植物園の見学ツアーにも参加した。鯉がたくさんいた。日本庭園を再現している所もあって、とてもきれいだったけれど、蚊がたくさん刺されてしまった。その後はサンクスギビングディナー。七面鳥やアップルパイなど伝統的な料理も並んでいた。お腹がいっぱいになるまでたくさん食べた。去年の親善研修生のアンドレア、一昨年の研修生フェイ、今年の研修生ヘイデン、ソロモンそして久保さんのホストシスターのハンナと私たち4人で同



『喋るオウム』

世代の話をたくさんし、アメリカのスラングや日本の若者言葉などを互いに教えあった。そして、セント・ピーターズバーグ市長にもお会いした。とても気さくで優しい人だった。ダリ美術館の時にガイドをしてくださった方のご主人が、ピアが描かれた絵を私たちにくれて嬉しかった。帰りはソロモンが車で家まで送ってくれた。

## 7月31日(火)

11時半ぐらいに家を出発して、タンパへ。コロンビア料理店へ行った。私はトマトの冷製スープとシーザーサラダとコロンビアコーヒーを頼んだ。どれも美味しかったけれど、一番気に入ったのはコーヒー。全くクセがなく、マイルドで美味しかった。今まで飲んだコーヒーの中で一番かもしれない。そのあとは歴史美術館をまわった。たばこが作られてきた歴史を20分間のショートムービーに収録したものを観た。この地域はスペイン語を話す人が多いと教えてくれた。帰宅後、すぐに用意をして、ソロモンの家へ。みんなと一緒にソロモンの家のプールに入った。ソロモンは家を2つ持っていて、びっくりした。みんなで競争したり、水をかけあったりして遊んだ。スラングを教えてもらったりもした。そして、ディナーの用意がしてある家に戻って、みんなで食べた。ジンジャーブレッドがとてもおい



『アンドレアとヘイデンと』

しかった。久保さんとヘイデンも加わって、もっとにぎやかになった。みんなでリラックスしながらオリンピックを観たり、日本のアニメについて話したりした。ハンナは私たちよりも詳しかった。中でも一番盛り上がったのは、日本の遊び「たたいて、かぶって、じゃんけんぽん！」叩く棒としてペットボトル、ヘルメットの代わりにプラスチック皿を使って遊んだ。アンドレアと会えるのは今日が最後だった。とても寂しかった。帰りはソロモンが送ってくれた。でこぼこ道を通った時、体が一瞬、ふわっとして面白かった。

## 8月1日(水)

10時過ぎに稲毛さんのホストマザーが迎えに来てくれて、稲毛さんがホームステイしている家に。そして、ペンシルベニアから来たシャノン、ケイラ、セント・ピーターズバーグ市の高校に通うケイ

リン、ニューメキシコから来たジェイニーに会った。みんなだいたい年齢も一緒。みんなでアドベンチャーワールドへ。でも、あいにくの雨と雷であまりプールに入ることはできなかった。ウォータースライダーはぎりぎりのところでストップさせられ、乗れず。計画変更で、16時くらいにビーチへ。最初で最後の海だった。太陽も眩しすぎず、暑すぎず、とても良い天候だった。砂浜に絵をかいいたり、泳いだり、楽しかった。まだ少し時間があったので、稲毛さんのホストマザーの妹の家に行った。家の裏がすぐ海で、素敵だった。そこでパドリングに挑戦した。初めてだったので、少し緊張したけど、意外と簡単だった。稲毛さんも挑戦していた。最後はみんなで海に飛び込んだ。家に帰る時間になったのでみんなとお別れのハグをして、家に送ってもらった。今日はお抹茶をダイアナとサラに点ててあげた。二人とも気に入ってくれて良かった。サラがクッキーを作ってくれていたのも食べた。ディナーは3人でThe Moon Under Waterというイギリス料理店に行った。家に帰ると2人からココナツの香りがするボディージェンパーとクリームのプレゼントがあった。心遣いが本当に嬉しかった。ありがとう！



『抹茶を楽しむダイアナとサラ』

## 8月2日(木)

7時半頃に家を出て、ダイアナとKahwa Coffeeへ。コーヒーとパウンドケーキを食べた。そして8時に市役所へ行って、市長さんにお会いした。稲毛さんが高松市長からのギフトを渡した。のれんをすごく気に入っておられた。そして集合写真をとって、会議室に入った。セント・ピーターズバーグ市のエリザベスが私達を紹介してくれた。いざ、緊張の一人ずつのスピーチ。生中継だったことは後で知ったが緊張した。その後議員の方々が一人数ずつメッセージをくれた。ヘイデンとはここで最後のお別れだった。すべてが終わると、ダイアナがカフェに連れていってくれた。家に帰ったら、残りの

すべての荷物をトランクにつめた。ランチはダイアナが天ぷらを作ってくれた。美味しかった。空港に行く前に、最後のお買い物をした。タンパ行きの飛行機は1時間の遅れ。最後にソロモンにうどんセットをプレゼントした。

みんなにさよならするのは本当に淋しかった。もうちょっと長くいたいと思った。ロサンゼルスで飛行機の乗り継ぎに戸惑ったが、なんとか解決して、日本に到着できた。香川県を空からみて、なんだか懐かしい気持ちでいっぱいになった。無事みんなで帰れて良かった。ひとまわり成長できたと思う。



『セント・ピーターズバーグ市役所にてヘイデンと』

## 感想文



### セント・ピーターズバーグ市と

### 高松市の架け橋となる

高松商業高等学校 3年

眞鍋 璃々子

親善研修生として姉妹都市に行く、こんな素晴らしい機会はめったにない、と応募の広告を見たときに思いました。誰もがこのような経験を高校生の際にできるものではありません。合格が決まったときの嬉しさは今でも忘れられないくらいです。

姉妹都市についてインターネットで調べ、ある程度知った上で行きましたが、やはり自分の目で見て感じるものとは全然違いました。ホストファミリーが私を様々なところに連れて行ってくれたので、セント・ピーターズバーグ市の様々な顔を見ることができました。そして、セント・ピーターズバーグ市の目玉である美術館にもたくさん足を運びました。人々がアートを愛し、長きに渡って守り続けているという印象を受けました。

なにより私が嬉しかったのは、市役所のスタッフの方々をはじめ、ホストファミリーや多くの友達私達を手厚くもてなし、サポートしてくれたことです。みんなが、まるで家族のような温かさをもって私達に接してくれたので、本当に居心地がよかったです。

セント・ピーターズバーグ市と高松市が深い絆で結ばれていることが、この研修でさらに実感できました。ホストファミリーの方々は、私にセント・ピーターズバーグ市について詳しく教えてください、また、高松市はどんなところなの？セント・ピーターズバーグ市と異なるのはどんなところ？と私にたくさん質問してくださいました。そうした交流を通じて互いに知れば知るほど、ホストファミリーと私との絆はいつそう深まったように感じました。海を隔て遠く離れた場所ではあるけれども、個々の交流を通じて、私達とセント・ピーターズバーグ市の人々の気持ちは、その距離を感じさせないくらい近いものだと思います。この国際交流は、双方の違った考え方、土地を知ることによって、さらなる発展と深い友情が芽生える素晴らしいものでした。

今後も国際交流のイベントやボランティアなどに積極的に参加したいと思います。このような貴重な機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。

# 親善研修生 報告書 IV

VI 舊書錄 全錄得善錄

## 日誌・活動記録

高松第一高等学校2年 武市 大和

### 7月20日(金)

今日は待ちに待った出発日。高校生4人だけでのフライトだったので少し不安だったが、4人の仲が良いので大丈夫そう。無事に羽田に到着。まず、国内線ターミナルから国際線ターミナルへと移動した。しかし国際線にはあまり食事をするところがなかったので、国内線で食事をするべきだった。無料シャトルバスで移動し、4人で軽く食事をして、チェックインを終わらせゆっくりしていた。出国手続きをする際に、ロンドンオリンピックへ向かう日本卓球女子代表の石川選手をみかけた。遅延もなく、ロサンゼルス行きの飛行機に搭乗することができた。機内は、一人ひとりの座席にモニターがあり、映画や音楽を楽しむことができた。しかし、時差ぼけを避けるため、映画鑑賞はほどほどにして、寝ておいた方が安心だ。

10時間ほどでロサンゼルス空港に到着し、入国審査後荷物を受け取り、そしてそのまま乗り継ぎカウンターで荷物を預けて地上へ出た。ターミナルの移動がよくわからず、40分ほどさまよった。しかし現地の警備員の方に教えてもらい、ようやくゲートを確認。そして食事をとることに。このあたりから日本人ということで珍しがられた。45分前にゲートへ向かうと、事前に知らされていた時間ではないものが表示されていた。4人でかなり焦ったが、カウンターの方に聞くと1時間の遅れが出たそう。とりあえず確認できたので、免税店やマクドナルドで時間つぶしをした。フライト遅延はあったものの、無事にロサンゼルスを発つことができた。雲一つない天気、アメリカ大陸の夜景を空から楽しむことができた。

### 7月21日(土)

タンパ空港に着くとホストファミリーの出迎えが。長旅だったが、ホストファミリーにやっと会うことができ安心した。ホストマザーはとても親切に窓から見える景色をたくさん教えてくれた。ホストマザーは画家として活躍しており、20年前に日本へ来たこともあるそう。子供が3人いて3歳と6歳のホストシスター、7歳のホストブラザーがいた。3人ともとても元気で出迎えてくれた。すぐに仲良くなる事ができ滞在が楽しみになった。ホストファミリーの家に着き、家を案内してくれた。リフォームの直前のように、2階しか使えず思ったより狭かったが、不自由はなさそう。一休みをして昼食を食べに外出することに。車移動だったが、炎天下に駐車されていた車内はすごく暑かった。夏の土曜日に開かれるマーケットへ行き、そしてファイブガイズというハンバーガーショップでホットドッグを食べた。昼食後、ピアという小型



『ホストファミリーと市役所前にて』

観光施設へ。屋上からセント・ピーターズバーグ市を一望できた。家へ帰り、準備をし、本日のメインイベントである野球観戦へ。予想していた以上のVIP待遇。しかも対戦相手がシアトルマリナーズだったので、イチロー選手も見ることができた。日本を代表するメジャーリーガーである松井選手とイチロー選手に会えたなんて夢のようである。スイートルームへ移動し、夕食を食べながら野球観戦。高松市へ親善研修生として来たことがある、ヘイデンやアンドレアにも再会できた。眠さが限界だったので、試合後のコンサートには参加せずに家へ帰った。そして帰宅後すぐに眠りに就いた。



『イチロー選手』

## 7月22日(日)

昨日はかなり疲れていたため、10時に起床。朝食をとりベッドに横になるとまた眠ってしまった。14時ごろにおきて、今日の予定を立てた。ホストマザーがセント・ピーターズバーグの観光施設のパンフレットを用意してくれていたなのでその中から行きたい所を選んだ。チフリー美術館というガラスの美術館へ向かった。美術館へ向かう途中、すさまじいスコールにあった。フロリダではよくある事らしい。画家であるホストマザーが丁寧に美術館を案内してくれた。生け花をモチーフにした作品もあり、日本とのつながりを感じた。そのあと家へ帰り夕食を食べて、22時就寝。20時ごろまで明るかったので驚いた。

## 7月23日(月)



『街外れにあるビーチにて、ホストシスター』

9時起床。車で移動中に、ホストファーザーに会った。温かく迎え入れてくれた。その後ファインアートの美術館へ向かった。とても厳かでしっかりした建物だったので驚いた。世界の地域別、年代別に展示されており西洋文化からアジア文化まで様々な美術品を楽しむことができた。写真を撮ってはだめだったらしいが、最後のほうで言われたので、もうすでにたくさん撮ってしまっていた。その後ガラス工房を見学した。ただ丸い形をしたガラスが息を吹き込むと一瞬で花のような形になる事に驚いた。色もとても鮮やかで綺麗だった。一度準備をする為に家へ帰った。そしてCM撮影のため市役所へ行った。何回も撮りなおすことになってしまったが、無事撮影を終え、市の役員の方とお話することができた。その後セント・ピーターズバーグ市のはずれにあるビーチへ行き、かもめにクッキーをやったり散歩した。水着の用意をしていなかったのにホストファミリーの子供達が海に走りだしたので大丈夫かと心配したが、こちらでは普通の事らしい。帰りにピザをテイクアウトし、帰宅してアメリカらしい夕食を味わった。22時就寝。この日も充実していた。

## 7月24日(火)

9時起床。今日はブッシュガーデンという遊園地へ行った。その遊園地ははとともとても広かった。動物園と遊園地が組み合わされたような施設だった。ホストブラザーとジェットコースターに乗ったりした。とてもエキサイティングで楽しかった。

遊園地のあるタンパからセント・ピーターズバーグ市へ戻り、ホストマザーの友人とインド料理の店で夕食をとった。旅行好きな人で南極に行ったことがあると聞いて驚いた。日本にはまだ来たことがない



『ブッシュガーデン』

といっていたので、ぜひ高松に来るように勧めた。一番嬉しかったのが「英語うまいね」と言われたことだ。お世辞だったとしても嬉しかった。お土産にフロリダでしかとれない、サメの牙の化石のようなものをもらった。その後帰宅。シャワーを浴びて眠りに就いた。



『ブッシュガーデン入口にて、ホストブラザー、シスターと一緒に』

その後帰宅。シャワーを浴びて眠りに就いた。

## 7月25日(水)

今日は8時ごろに起床。子供たちが祖父母の家へ帰省するので、タンパ空港までお見送り。そしてホストマザーとセント・ピーターズバーグ市へ戻り、ダウンタウンを散策。ダウンタウンといっても小規模なものだった。ホストマザーが行く先々で、高松から来た私をお店の方に紹介してくれた。初めのほうはマザーが全部紹介してくれていたが、途中から自己紹介してみてもといわれたので、英語で高松の魅力や私の家族について話したりした。その後家へ帰り、ヘイデンの両親が企画してくれたセーリングパーティへ向かった。ヘイデンと同じセーリングチームの友人とが操縦をしてくれた。初めてのセーリングだったが、海風がかなり気持ちよかった。日本に帰っても、また乗ってみたいと思うほどだった。その後、みんなが持ち寄った料理を食べた。ここで2週目のホストファミリーも参加していたので対面する事ができた。5人家族でホストファミリーは南フロリダ大学の研究員をしており、仕事で日本へは2年に1度来られているとの事。ホストマザーは会社を経営している。14歳と18歳のホストブラザー、15歳のホストシスターがいて趣味やアルバイトについて話したりした。また日本のお好み焼きや飴などのお菓子を紹介することができた。そして帰宅し、アメリカの人気番組で日本でもよく知られている「Glee」を見た。23時就寝。



『帆を操るヘイデン、後方に見えるのはセント・ピーターズバーグ市のシンボルである小型観光施設のピア』



『操縦を任された僕』



## 7月26日(木)

今日はホストファミリー交替の日、ダリミュージアムを見学した。ダリミュージアムでは、日本人のガイドさんに案内してもらえたのでダリの世界観を深く感じることができた。その後ギリシャ料理の店でセント・ピーターズバーグ市役所職員のエリザベスさんとキムさんとで昼食をとり、プログラムは一旦終了。ホストマザーの迎えで家へ帰り、昼寝をして、スーツケースの荷造りをした。



『みんなでギリシャ料理店にて』

そして5時になり、ホストファミリー交替場所の会場へ向かった。市役所近くのギャラリーで行われた。セント・ピーターズバーグ市はとてもギャラリーが多くワークショップも頻繁に開催されており、たくさんのアーティストの方々と直接お話することができる。以前、高松市に親善研修生で来たフェイと話したり、フルーツを食べたりしながら、2週目のホストマザーの到着を待つ。迎えに来てくれて、新しい家へと向かった。

新しい家はとても大きく、アメリカを感じた。ホストファミリーに家を案内してもらい、夕食の時間。ホストマザーの手料理は、とてもおいしかった。夕食を食べ終わったころ、ホストブラザーの友人が家を訪ねてきた。そして「ティーンエイジャーライフを見せてあげる。」といわれて、ホストブラザーとパーティへ行った。若い人達がたくさんいた。ホストブラザーの友人がアフリカンアメリカンの人を指差して否定的な発言をしていた。差別はまだ残っているんだと感じた。深夜1時頃帰宅、就寝。

## 7月27日(金)

今日は9時起床。シャワーを浴びて、インターネットで日本の友人と連絡を取ったり、これからの予定を確認したりしていた。そしてホストマザーが仕事から帰ってきて、一緒に昼食へと出かけた。平和に関するボランティア団体のイベントで、かなり温かく受け入れてくださった。バイクの昼食を食べた後、ホストファミリーが働く南フロリダ大学の研究室へ向かった。あまりよく理解することはできなかったが、探査機みたいなものを紹介してくれた。その後、家へ帰り、昨日の夜にリクエストしたインターナショナルプラザへ行くことになった。プラザへ行くまでの高速道路は金曜日の夕方ということもあり、かなり混んでいた。プラザは驚くほど広く、たくさんのテナントがあった。待ち合わせ場所だけ決めて、時間は決めなかったので、一度迷子になってしまった。ホストマザーの携帯番号を知らなかったのが連絡が取れなかったが、インフォメーションの方や警備員さんに助けてもらって、なんとか再会できた。楽観的な性格が功を奏したのかあまり慌てる事はなかった。その後、夕食を食べ、帰路へと着いた。迷子になるというハプニングが起こってしまったが、これもよい経験だったと思う。家に着いてから、かなり疲れていたもので、すぐに寝てしまった。

## 7月28日(土)

10時起床。今日は公式プログラムのアメリカ演劇を見るために、14時ごろに劇場へ向かった。言

葉はあまりわからなかったが、フェイが休憩時間に説明してくれて、役者さんの動作で大体理解することができた。とても面白い公演だった。その後帰宅。一休みする暇もなく、ホストブラザーとバスケットボールをするために外へ出た。シュートを何回かして、ベンチに座っていた。するとすごい数の蚊に噛まれていた。甘い緑茶を飲みながら、ホストファーザーとの会話の話題が音楽へと変わった。iPhoneを貸してくれて、お勧めの音楽を楽しんだ。その後夕食を食べに行った。ギリシャ料理のジャイロを食べた。そして公式プログラムのサッカー観戦へ向かった。しかし胃がもたれてものすごく痛かったので、すぐに家に帰ることになってしまった。家に帰ってから胃腸薬を飲むとすぐに治ったので、ホストファミリーが大好きなトランスフォーマーを見ることになった。日本語字幕を探してくれたけどあるはずもなく、12時過ぎまで鑑賞し、就寝。

## 7月29日(日)

昨日は寝るのが遅かったため、今日は10時ごろ起床。朝食を食べて、日誌を書いたりしていた。すると、ホストブラザーがばたばたしたので、何をしているのか気になって、リビングへ行ってみた。彼はエアガンでシューティングをしていた。プラスチックの弾もあったが、小さい鉛弾もあって驚いた。そして打たせてもらえることになった。3発目でターゲットのペットボトルに当てることができ、ホストファーザーが「ガッチャ！息子よりセンスあるよ。」と褒めてくれたので、ちょっと嬉しかった。汗をかいたのでシャワーを浴びて、映画館へ行く準備をした。



『ホストブラザー、シスターとアイマックスのあるMOSTにて』

家から近いセント・ピーターズバーグ市の映画館ではなく、タンパの映画館へ行ってくれるそうだ。そこはアイマックスと呼ばれるシアターで、スクリーンが半プラネタリウムのようにになっていた。視界が360度すべてスクリーンになるので、アイマックス(iMAX)と呼ばれるそうだ。そこではバットマンを見た。その後セント・ピーターズバーグ市のビーチで久保さんと稲毛さんと一緒に貝殻集めをしたり、日没と同時にサンセットベルを鳴らして、ホストファミリーと夕食を食べた。



『サンセットベル』

その後帰宅。すぐに眠ってしまった。

## 7月30日(月)

今日は9時半起床。起きたら誰もいなかったなので、近くの湖を散歩したり、家でバスケットをしたりしていた。15時にみんなが帰って来たのでサンケンガーデンズに行くための準備をし、ホストマザーの車でそこへ向かった。サンケンガーデンズは100年の歴史があるらしい。たくさんの植物を見ることができ、白いオウムに触ることもできた。その後、サンクスギビングパーティへ。たくさんの食事



『サンケンガーデンズのオウム』

が並べられていたので全てを食べることはできなかった。

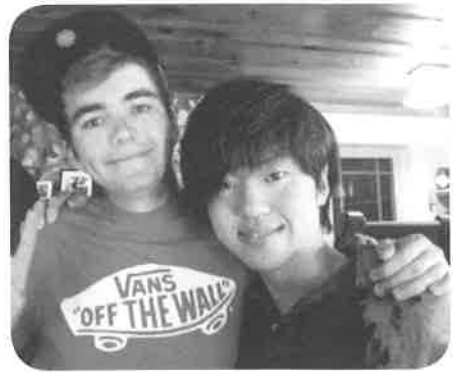
セント・ピーターズバーグ市長と対面することもできた。すごく気さくな方で、ホイップクリームを口に直接盛って食べるというアメリカンスタイルを体験させられた。皆で写真を取って解散となった。日本では話し相手の年齢や立場によって話し方も変わるが、アメリカでは立場の隔たり無しでお互いに話しているように感じた。なので自分も緊張する事なく話せたと思う。これもアメリカ文化だろう。その後、ホストシスターの運転でターゲットというホームセンターへ。新学期に必要なものを買うそうだ。200ドルくらい使っていてびっくりした。帰ってからすぐに就寝。

## 7月31日(火)

今日は、8時半起床。シャワーを浴びて朝食をとり、出かける準備をした。今日は、稲毛さんのホストファミリーと一緒にエリントンアウトレットモールとビーチへ行く予定だ。

モールではたくさんの店があり、驚いた。そして、とても暑かった。13時半まで買い物を楽しんで、セント・ピーターズバーグに戻った。そしてビーチへ。2時間くらい泳いで、ビーチショップでお土産のTシャツを買った。そして今年の親善研修生だったソロモンのスイミングパーティへ。2つも家があって驚いた。セント・ピーターズバーグ市の親善研修生たちと高松の4人で

プールではしゃいだり、同世代の話をした。フェイはとても日本語が上手になっていた。そして、ディナーを食べて、リビングでくつろいだ。日本の遊びを紹介したり、オリンピックを見たり、スペイン語を教わったり。とても楽しい夜だった。11時ごろにソロモンの運転で帰宅、すぐに寝た。



『ヘイデンと僕』

## 8月1日(水)



『マーメイドショー』

今日は8時半起床。久保さんとハンナと一緒にウィキワチという公園に行った。そこは、湧水で作られたプールだった。かなり古くからある伝統的な場所らしい。ウィキワチという地名はネイティブアメリカンの言語から由来しているそうだ。マーメイドショーまでまだ時間があったので散策した。野生のクジャクやリスがいた。

マーメイドショーの時間になったので会場に向かった。とても魅惑的なショーだった。日本では見たことも聞いたこともないようなショーだった。終わった後は泳いだ。湧水でとても冷たかったので、あまり長い間は入ってられなかったがウォータースライダーに乗ったりしてとても楽しかった。そしてベンチでゆっくり休憩した。その後ボートに乗りに行った。川なのでたくさんの魚が泳いでいたり、アメリカンイーグルの巣もあったりした。4日前には、ワニが出たそうだ。そして、マクドナルドのドライブスルーでチーズバーガーを購入し、帰宅した。帰宅途中で、家に電話をしなければならなかったが、英語での電話はやはりとても難しかった。

荷作りをし、最後の夕食ということで風鈴やおまんじゅうのお土産を渡した。全てのものを喜んでくれた。明日は、市長表敬のため朝が早いので、22時にはベッドに入った。

## 8月2日(木)



『フォスター市長と市役所にて』

でもらえることになった。海洋科学学部のキャンパスだったので探査機を見たり、停泊している船に乗ったりした。

昼くらいまで大学を案内してもらったり、地元の新聞社のインタビューを受けたりした。その後、ミッドタウンという有名なスポーツバーへ昼食をとりに行った。ホストマザーと合流し、アメリカで食べる最後の食事。手羽先の照り焼きを10個も食べたので、お腹いっぱいになった。

家に帰ってからは、スーツケースの整理をし、そして、タンパ空港へ。ホストファーザーとホストブラザーが見送りに来てくれた。最後の御礼をした。他の研修生たちのホストファミリーとも別れを済ませ、飛行機へ。液体物やスーツケースの行方などトラブルはあったものの無事に高松に帰ってくることができた。

今日は6時半に起きた。こんなに早く起きるのは、ものすごく久しぶりだ。シャワーを浴びて、制服に着替えた。車で市役所に向かった。ホストファーザーと一緒に中に入り、市長と面会。その後、市議会に参加して一人ひとりスピーチをした。この市議会はセント・ピーターズバーグ市で生放送をされているようで、自分達も映ったらしい。スピーチをする時、たくさんの方がいたのでとても緊張した。ヘイデンと最後の別れをして、ホストファーザーの仕事場である南フロリダ大学へ。日本のオープンキャンパスへ行く前にアメリカの大学を案内し



『ホストファミリーと空港にて』

## 感想文



高松第一高等学校 2年  
武市 大和

### インターナショナルに生きる

まず初めに、私たちにこのような素晴らしい経験を積む機会を与えてくださった関係者の方々、本当にありがとうございました。今回の経験により、今まで日本という一国だけに目を向けていた私たちが、高校生4人だけで海外に飛び出すことで、すべての物事に対する視野をさらに広げることができました。また、多くの方々と出会い、コミュニケーションを交わすことで、一人ひとりが自己を見つめなおし、一歩前進しさらに成長する機会ともなりました。

アメリカには私たちが今まで出会ったことのない、様々な文化がありました。人種、民族、宗教などによる違いや、ただ単に好みによる文化の違いもありました。ひとつ、宗教に関するエピソードを紹介したいと思います。セント・ピーターズバーグ市からの親善研修生だったフェイについての話です。彼女は市のプログラムがあるときは、毎回必ず参加してくれました。食事のとき、彼女は食べ物を食べません。初めは欲しくないだけなのかと思っていました。しかし次の日の食事でも食べていませんでした。彼女に理由を尋ねてみると、今は断食の時期だということでした。彼女はヒンドウ教徒だったのです。彼女の両親はインド出身で彼女が幼いころ、アメリカへ移住したそうです。日本ではなかなか出会うことができない出来事だったので、衝撃的な印象を受け、「辛くないのか」、「いつからいつまでなのか」などたくさんの質問をしてしまいました。日本は信仰の自由はあるものの私の知り合いの中で、そこまで熱心に宗教活動をしている人はいないからです。

アメリカで感じたことは、日本人のキャラクターはあまりにも内向的すぎるのではないかと思います。江戸時代の鎖国などの歴史背景や単独民族構成国家というのも関係していると思いますが、もっとオープンになる必要があります。なぜならインターナショナルへと世界が向かっているからです。私たちが出会ったアメリカの方々にはホストファミリーに限らず、お店の店員、道ですれ違った人々、空港でたまたま一緒にエレベーターに乗り合わせた人々、みんな私たちが信じられないほど温かく受け入れてくれました。もしそれが反対の場合、私たちはあんなに外国人を温かく迎え入れることができるでしょうか。私は少なくとも現在の日本では無理だと思います。

真のインターナショナルとは何なのか。どれをもって答えとするものなのか。私にはまだわかりませんが、今回の経験はその答えを確かなものにする一歩となりました。これからもその答えを見つけられるよう、国際交流を自ら積極的に行いたいと思います。

私たち4人に姉妹都市セント・ピーターズバーグ市を訪れる機会をくださったすべての方々に感謝します。本当にありがとうございました。